九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

西ドイツと日本の間にみられる英語系外米語の意味差異 : その3(補遺)

根本, 道也
九州大学教養部

https://doi.org/10.15017/6796162

出版情報：言語科学. 20, pp.57-77, 1985-03-30. 九州大学教養部言語研究会
バージョン：
権利関係：

西ドイツと日本の間にみられる英語系外来語の意味差異
——その3（補遺）——

根　本　道　也

本稿は「言語科学第16号」(1981) に掲載の同題「その1」及び同誌「第17号」(1982) の「その2」に続くものである。しかし，内容的には前2者の隙間を補う，いわば「補遺」編になった。「第16号」では Art-director から Glamourgirl までの28語を，そして「第17号」では Goal から Twist までの37語を取り上げた。その後も折に触れてこの種の語を拾い集めてきた。掘り出せば意外にたくさんあるもので，意味差異の小さなものまで数えると，さらに140語ばかり見つかった。ここでは，紙数も限られているので，その中から特に意味差異の大きいものだけを取り上げたい。見出し語の番号は「その2」の後をうけて，㊻から始まる。

㊻ At-home（中 —／—s）

私たちはよく「アットホームな雰囲気で」という言い回しをする。これは英語の名詞 home と前置詞 at から成る句 at home の用法の一つ be (feel) at home（「(自宅にいるように) 気楽に，くつろいで」）を形容詞風に転用したものである。英語の句 at home はそのほかに「在宅して，在宅日で，面会日で」，「本国で，国内で」，「(…に) 精通して」，さらにスポーツに関しては「ホームグランドで」などのようにも使われるが，日本語化した「アットホーム」にはこれらの意味は含まれていない。

これに対して，ドイツ語の中に借り入れられた At-home は名詞として「くつろいだ（肩のこらない）応接日」の意味で使われる。もともと英語では at home という句が招待状の中で使われると「この時間には在宅しています」という意味をもち，それが名詞に転じて「(一定の日時在宅の旨をあらかじめ通知しておいて) 客を迎えること；（自宅で催す）略式のパーティー」を意味するようになった。ドイツ語になった At-home はこの用法に由来している。発音も英語式で，日本語の「アットホーム」そっくりに聞こえるが，両者の意味の開きは意外に大きい。

なお，At-home が中性名詞とされたのは home を *das* Heim の同義語とみなしてのことだろう。

㊼ Babycar（男 —s／—s）

baby が形容詞として用いられるときの意味を大きく分類すると3通りになる。「㋑赤ん坊の；赤ん坊のような。㋺赤ん坊用の。㋩小型の；小額の。」㋩の用法の一つに a babycar があり，これがドイツに入って Babycar とつづられるようになった。ドイツでは特に小さい自動車をふつうは Kleinauto または Kleinstwagen と言う。それをからかって，「豆自動車」という感じで呼ぶときに，この Babycar が用いられる。男性名詞とされたのは，car が *der* Wagen に相当するからであろう。

一方日本では，「腰かけ式のうば車」を「ベビーカー」と呼んでいる。baby に「赤ん坊用の」という意味があるから，いかにも英語をそのままカタカナ化した語のように思われるが，実はこの種の「うば車」のことをイギリスでは baby carriage，アメリカでは perambulator と呼んでいる。

㊽ **Bonus** [ˈbo:nus] (男 —(または Bonusses)／—(または Bonusse))

語源は「良い」という意味のラテン語 bonus であるが，直接的には英語の商業用語 bonus がドイツ語化して *der* Bonus となった。「株の特別配当金」を表す語としてドイツでも今世紀初め頃には通用するようになっており，発音もドイツ語式になった。男性名詞とされたのは，商業用語としてのその意味がドイツ語の zusätzlich*er* Gewinnanteil に相当するからだろうか。

ドイツ語の Bonus は上記の意味のほかに，やはり商業関係で「大量にまたは長期間取り引きしてくれた顧客に対する割り戻し金」の意味でも使われる。それから商業関係といっても広い意味においてではあるが，自動車の責任保険について「一定期間無事故の場合に保険会社から認められる保険料の割り引き」をも表す。ここまでは英語の bonus とまずまず共有する意味と見なしてよかろう。ところがドイツ語の Bonus は学校の生徒について使われることもある。それは「苦学をせざるを得ず，それ故に成績の悪かった生徒に対して卒業時に与えられる割り増し点」の意味である。トランプのブリッジで報償点のことを bonus と言うが，それを学校の成績に応用したものと思われる。

私たち日本人が「ボーナス」と呼んでいるのは夏季と年末の「賞与」であって，ドイツ語の Bonus が表す上記 3 種の意味に解釈することはまずあるまい。「賞与」は英語 bonus の主要語義の一つであるが，日本中の各種サラリーマンが夏季と年末に年中行事として一定パーセントの臨時給与をもらうのは日本独特の現象であろう。このような給与習慣のないドイツの人々に Bonus という語を使って，「盆，暮れの賞与」と理解してもらうためには，日本の給与習慣についてあらかじめ説明しておく必要がある。

㊾ **Busineß** (中 —／)

英語の business は「商売；営業；仕事」，つまり *das* Geschäft に相当する英語として戦前のドイツでも知られぬわけではなかったが，かといって日常使われる外来語でもなかった。ところが今ではどんな小辞典でも見出し語に取り上げるほど，ドイツの社会生活に溶け込んだ用語の一つになっている。その点日本も同じで，近頃は「ビジネス」という語をひんぱんに耳にし，かつ言うようになった。しかし，ドイツ人の使う Busineß と私たちが使う「ビジネス」とはどうもぴったり重なり合わないような気がする。

英語の business が表す主な意味は，ほぼ次の 5 種にまとめられよう。「㋑用事，用件。㋺業務，事務；仕事；職業。㋩商売，取り引き；商業，実業［界］。㋥店，会社，商社。」日本語の「ビジネス」はこのうち㋺の意味で使われることが最も多いようだ。例えば，「ビジネス・ウェア」，「ビジネス・スーツ」，「ビジネス・ガール」などの「ビジネス」はすべて㋺の意味に属する。「ビジネス・センター」の場合は㋩または㋥のどちらとも考えられる。

㋩の意味で business を使った言い回しに Business is business.（商売は商売だ）というのがある。これは，寛容や感情を抑えて商取り引きに徹するときのきまり文句としてよく使われる。

この文句から「金もうけのためだと割り切ってする仕事や行動」という意味にも business は使い得るものと考えるようになった。英語の business 自体は単独でそのような意味を表すことはないが，少くとも日本とドイツでは共通して，そう受け取られている。しかも驚くべきことに，現代の西ドイツでは，Busineß とはもはやふつうの「仕事や商売」ではなくて「余りにももうけばかりをねらった商売や事業」だけを表す名詞として使われている。第二次大戦前は *das* Geschäft に相当する英語としてわずかに知られていた business が戦後ドイツが二つの国に分かれてから，西ドイツではこのように特殊な意味で日常語の一つに成長し，他方東ドイツでは外来語としても廃語同然になってしまった。ちなみに，東ドイツの外来語辞典では Busineß の項に (im Kapitalismus) と注記を付けている。資本主義経済と社会主義経済という仕組みの違いが一つの言葉をこれほどに変容させるものかと思う。

⑳ **Businessman** (男 —[s]／. . men [. . mən])

日本語の「ビジネスマン」は明治時代にまず「実業家」の意味で使われはじめ，昭和になってからは主に「会社員，事務員」の代用語として用いられるようになった。元の英語 business-man は「㋑実業家，商人；経営者。㋺実務家」を表す語であるから，日本語に入ってから時とともに表すものが少し変ってきたと言える。しかしそれはまだ決定的な差異ではない。

ところが西ドイツでは，前項の Busineß の意味を受けて，「あまりにももうけのみをねらう商売人や実業家」を表す否定的用語として使われている。

東ドイツの外来語辞典では「資本主義的企業家」と説明されているのがおもしろい。

㉑ **Caddie** (男 — s ／— s)

英語の caddie は「㋑（ゴルフの）キャディー。㋺使い走りや雑用をする人。㋩キャディー・カート（ゴルフのクラブなどを運ぶ 2 輪車)」の意味で使われる。

㋑の「ゴルファーのクラブを運ぶキャディー」はドイツ語の Caddie にも日本語の「キャディー」にも共通に受け継がれている。そして日本語の「キャディー」はこの意味でしか使われないのに対して，ドイツ語の Caddie はほかに二つの物を表す。一つは上記㋩の「キャディー・カート」，他の一つは「スーパーマーケット内で使う買い物用の手押車」である。後者はドイツで独自に発展した意味であろう。

ドイツではゴルフ場のキャディーは若者が勤めるものらしい。若者は男性名詞の Junge で表す。また，キャディー・カートも買い物車も *der* Wagen の一種である。こういうことから Caddie は，その語末が女性音であるにもかかわらず，男性名詞と定められたのだろう。

㉒ **Caravan** [ˈka[:]ravan または karaˈva:n] (男 — s ／— s)

英語の caravan は「㋑（砂漠の）隊商。㋺（移住民などの）車馬隊；（ジプシーなどの）幌馬車。㋩屋根付き貨物運搬車。㋥《英》（自動車で引く）移動住宅」などの意味に使われる。英語としての発音は [kǽrəvæ̀n] だが，ドイツではすでにドイツ語式に発音している。ドイツで Caravan といえば，「ステーション・ワゴン（貨物兼用乗用車）の商標」，上の㋥を引く「旅行用移動住宅」，それに「(果物・野菜・パンなどの）販売車」のことである。いずれも車すなわち *der* Wagen であるから，Caravan も当然男性名詞とされた。「ステーション・ワゴン」と「販売車」は㋩の意味を応用したものであろう。

ドイツ語の Caravan が㋩と㋥の意味を汲んでいるのに対して，日本語の「キャラバン」は㋑と㋺の流れを引いている。すなわち，一つは㋑そのものの「隊商」であり，もう一つは「未開の奥地や高山をめざす調査隊や登山隊」で，どちらかというと㋺に属する意味である。結局，ドイツ語の *der* Caravan は「車」に関して用いられ，日本語の「キャラバン」は「人」の集団に関して用いられていることになる。

㉓ clean(形)

日本人が「クリーン」を最もひんぱんに口にするのは，野球の話をするときだろう。「クリーンアップ」とか「クリーンアップ・トリオ」あるいは「クリーンヒット」などと言う。初めの二つは英語 clean の動詞としての用法 clean up（きれいに掃除する）に由来し，「走者一掃［トリオ］」の意味である。

動詞 clean の最も根幹的意味が「きれいにする」であるのと同じく，形容詞としての clean もその第一義は「清潔な，きれいな，よごれのない」である。日本には明治時代に clean のこの意味と，派生的意味の一つ「みごとな，鮮やかな」が入ってきた。後者はゴルフの「クリーン」（みごとなアイアンの打ち方）や野球の「クリーン・ヒット」に例が見られる。英語の clean はその他数々の派生的意味をもち，用途も広いが，日本語になった「クリーン」は明治以来現在まで意味範囲がほとんど変らない。もっとも最近では「クリーンな選挙」，「クリーンな政治姿勢」，「クリーン・インダストリー」（無公害産業）にように日本でも clean の第一義が比喩的な意味で政治や産業に関してまで使われるようになってはきたが。

ドイツで clean が口にされだしたのはかなり新しいことで，麻薬が社会問題としてクローズアップされて以来である。現代ドイツ語の中で clean が使われる場合，それは十中八九「(麻薬常用者が) もう麻薬を常用していない」という意味を表す。この意味は英語の clean に比較的新しく加わった派生的意味の一つである。

㉔ Cover（中 — s ／ — s）

cover は第二次大戦後西ドイツに伝わり，現在では「グラフ雑誌のタイトルページ，あるいはその口絵」及び「レコードのジャケット」を指す語として使われている。「(グラフ雑誌の) タイトルページ」と「レコードのジャケット」は英語の cover が表す意味の一部であるからうなずけるにしても，「(グラフ雑誌の) 口絵」は原義から離れすぎている。たぶん次のような経路で「口絵」に到ったのだろう。グラフ雑誌の口絵には通例チャーミングな女性の顔写真が選ばれる。その女性すなわち Covergirl (<cover girl)がいつも見られるグラフ雑誌のタイトルページを簡単に Cover (<Covergirl)と呼ぶようになり，ついには「口絵」そのものまで Cover の一語で表すようになった。「口絵」を表すドイツ語 Titelbild が中性なので，それと同じ意味に使われる Cover も中性名詞とされた。

さて，日本で「カバー」という語が用いられはじめたのは明治時代で，当初は英語の cover と同じく，本の「表紙」を指していたらしい。ところがその後この「カバー」は独特な発展をして，「本の表紙にかぶせるおおい」になってしまった。英語では本来，[book] jacket または [book] wrapper あるいは dust cover と呼ぶものを日本では「カバー」一語で表すようになった。同じものをドイツ語では *der* Schutzumschlag と言う。

日本語の「カバー」は「表紙のおおい」以外にも幾通りかの使い方がある。「費用の不足分はカンパ金でカバーしよう」と学生は言い，「あの場では当然キャッチャーが一塁のカバーをすべきでした」と野球解説者は言う。英語 cover が表す意味の一部を巧みに日本語の中に取り入れている。また「ラジオ・テレビの電波が届くこと」も「カバー」と言う。これは動詞 cover の「(範囲が) …に及ぶ」と coverage（サービスエリア）との混用である。

⑮ Cut ［kœt または kat］（男 ― s ／― s）

「カット」という語を私たちは実にいろいろな場面で使っている。「賃金のカットには断固反対」，「作文の重複部分をカットする」と言う場合は「切り取ること，削除，省略」の意味。「このページには内容にふさわしいカットを入れたい」では「簡単な小さい挿絵」のこと。美容院で「今日はカットだけお願いするわ」と言えば，「(髪を) 切る」だけにして欲しいということ。そして洋裁に関して「カット」と言えば「裁断」であり，トランプをするときは「カードを切ること」の意味になる。スポーツにもいろいろな「カット」がある。テニスや卓球では「ボールに逆回転を与えるように打つこと」に用いる。サッカーやバスケットボールは「相手のボールをたたき取ること」を，また野球では「野手が他の野手の送球を途中で捕ること」を「カットする」と言うが，この二つは動詞の cut off（遮断する，さえぎる）から来たものであろう。

以上の「カット」は英語の cut が名詞としてあるいは動詞として表す意味にわりあい忠実であると言える。忠実でないのは映画の「カット」である。英語では cut を映画用語として使うと，「画面を突然転換すること」の意味になるのに，日本ではよく「ワンカット」とか言うように「１場面」――英語では shot――の意味で使われている。これは，撮影中に監督が「そこでカット」と言えば１場面が終ることからの誤用らしい。

同じ cut がドイツ語へは1900年ごろ「モーニングコート」の意味で入った。この cut は cutaway の略称である。さらに正確には cutaway coat（前すそを腰のあたりから斜めに裁った上着）のことで，それをドイツ語に直すと abgeschnitten*er* Rock となるので，Cut も男性名詞とされた。*der* Cut にはその後ボクシング用語の「(目の上が) 切れること」も加わった。それにしても日本語の「カット」に比べればはるかに使用場が狭い。

⑯ Denomination ［denomina'tsio:n］（女 ― ／―en）

ラテン語系のこの語は，ドイツ語式に発音されるとき複数語尾は―en で，「①命名。②告示，公告。③《経》株の額面価額の引き下げ」という３種類の意味をもつ。今ではこのうち①と②の意味で使われることはほとんどない。英語の denomination も同じラテン語 denominatio（命名）が元になっている。英語の方は「㋑命名。㋺種類，種目。㋩宗派，教派。㋥（度量衡・金銭などの）単位名称，（証券の）券種」などの意味をもつ。この英語 denomination が㋩の意味で，あらためてドイツ語に入った。そういうわけで，ドイツで Denomination が英語風に発音されるときは「(キリスト教の) 宗派，教派」のことである。

日本語の「デノミネーション」は経済用語として「貨幣単位の呼称」の意味で英語の denomination を借用したのが，そもそも誕生のいきさつである。しかし現在私たちがよく「デノミ」と略して口にする「デノミネーション」は一様に「貨幣単位の切り下げ」を意味している。ところがこの意味は，英語の denomination にもドイツ語の Denomination にもない。だか

ら，辞典で「デノミネーション」と denomination あるいは Denomination を安易にイコールで結ぶような解説の仕方をすると，利用者を困惑させることになる。日本語の「デノミネーション」が実際に表す意味を英語に移すならば devaluation，ドイツ語ならば Devalvation または Devaluation を使うべきであろう。

㊼ **Drink**（男—［s］／—s）

名詞としての英語 drink は「㋑飲み物，飲料。㋺アルコール性の飲料，酒。㋩ひと飲み；1杯」のような意味に用いられる。

ドイツでは飲み物一般を指すときは Getränke (das Getränk の pl.)を使う。それでは der Drink はどんな場合に使われるのか，少し用例をみてみよう。Darf ich Sie zu einem Drink einladen?（ちょっと一杯ご案内したいのですが。）あるいは Sie haben sich auf einen Drink in der Bar verabredet.（彼らはバーで一杯やろうと申し合わせた。）この Drink は明らかに上記㋑㋺㋩の中では㋺と㋩を汲んでいる。男性名詞とされたのは，ちょうどドイツ語の *der* Trunk に相当するからであろう。Ich mixe uns einen Drink.（いまカクテルを作るからね）のように der Drink はときに「カクテル」も指す。いずれにしても「アルコール飲料」を表す点が，ドイツ語としての Drink の特徴と言える。

日本語で「ドリンク」と言うと，まず十中八九は「ドリンク剤」，ドラッグストアの冷蔵ガラスケースに並べてあるあの保健飲料を指す。あれは疲労回復や強精などをうたっているが，要するにアルコール抜きの発泡飲料である。

der Drink も「ドリンク」も，飲み物にはちがいないが，ドイツの Drink はアルコールを含み，日本の「ドリンク」はアルコールを含まない。

㊽ **Flash**（男—s／—s）

英語の flash は自動詞，他動詞，名詞，形容詞と用途は広い。名詞としての flash は「㋑閃光，火花；（写真の）フラッシュ。㋺（機知などの）ひらめき。㋩瞬間。㋥新聞や通信社の［電送］至急報。㋭（俗悪な）派手な虚飾。㋬せき，水門。㋣（麻薬の静脈注射による）最初の強烈な陶酔感。㋠（映画の）フラッシュ（物語の本筋を解説するために映し出される特に回想的な瞬間場面）」などの意味を表す。

ドイツ語化した Flash も日本語化した「フラッシュ」も上記㋑～㋠の一部ずつを受け継いでいる。日本人が日常生活で口にする「フラッシュ」は十中八九「写真のフラッシュ」の意味である。ほかに，報道関係の㋥および映画関係の㋠も外来語辞典に記載されている。それぞれ仲間うちで通用する用語であろう。

ドイツにはまず㋠の意味を伴って flash が入った。映画用語だから歴史的には古くない。そして近年，麻薬患者の増大に伴って㋣の意味の flash が入り，先きの Flash と合体した。一つの社会現象が広まれば，それに伴うことばも同じ勢いで伝播する。日本語の「フラッシュ」に麻薬関係の意味が加わらないことを祈りたい。

なお，flash の原義がドイツ語の *der* Blitz に等しいことから Flash も男性名詞とされたのだろう。

㊾ **Gag**（男—s／—s）

もともと口をふさがれたときの擬音語である英語の gag は，名詞としては，それの直系ともいえる「㋑さるぐつわ；口止め，言論圧迫；（歯科用の）開口器」などの意味のほかに，演劇に関して「㋺（役者が舞台で臨機に入れる）入れぜりふ，アドリブ；（寄席・芝居・映画の台本などに取り入れられた）場当たり文句，滑稽，だじゃれ，冗談」の意味に使われる。日本語の「ギャグ」もドイツ語の gag も後の方の意味を汲んだものだが，それぞれ少しずつ変質している。

私たちが日常口にする「ギャグ」は「役者が舞台で臨機に入れるアドリブ」というよりはもっと俗っぽいもので，「客を爆笑させるための奇抜なせりふ・動作・場面」といった感じのものである。

ドイツ語の Gag は㋺を忠実に受け継いでいるが，ほかに独自の意味ももつようになった。

本来の gag は，人知れず計算されてこそ効果がある。一つはそこからきたもので，商品が「独自の思い付きによってできたもの」であるとか，「技術的な特殊性を備えて」いることなどをうたう宣伝文句に使われる。ein Auto mit vielen technischen Gags とは「他には見られないような技術的特質をたくさん備えた自動車」だということになる。もう一つは，gag の意外性を強調したもので，「思いがけないことからふと生じた，特殊なこっけい場面」といった意味に用いる。これも舞台から遊離した，かなり派生的な用法である。

なお，Gag が男性名詞とされたのは，㋺の内容が witzig*er* Einfall あるいは一種の *der* Witz とみなされたからであろう。

㊽ **Go-Kart**（または-cart）（男 —[s]／— s）

元になった英語 go-cart の意味は「㋑（小児の）歩行器，あんよ車。㋺小型うば車，ベビーカー。㋩手[押し]車。㋥（昔の）無蓋軽装馬車。㋭（遊園地などに見られる）娯楽用小型エンジン車」である。

日本語として用いられる「ゴーカート」の意味は上記5種類のうち㋭だけに限られている。ドイツ語化した Go-Kart も子供用の遊び車を意味することはあるが，しかし主な意味は「（2サイクルエンジンを備えた）一人乗り用小型無蓋競争車」である。子供が遊びものにしてはならない車なのだ。

「外来語の語源」（吉沢・石綿）によると，本来は米軍が不用機械を組み立てたのが始まりとされ，その後，遊戯用・スポーツ用として流行し，Go-Kart の商標名で売り出されたものだそうである。それがのちに日本では遊戯用として，ドイツではスポーツ用として利用されるようになった，ということだろう。

「競争自動車」は *der* Rennwagen であるから，その一種である Go-Kart も当然男性名詞とされた。

㊾ **Holding**（女 —／— s）

英語に holding company（持株会社）という経済用語がある。これの後半部（company）だけをドイツ語化した *die* Holding*gesellschaft* がドイツの経済用語にもなっている。ドイツ語の Holding はこれの略称だから，文法上はやはり女性である。

そもそも英語の holding は「㋑しっかりつかむこと。㋺（土地の）保有［権］；保有物。㋩持

株会社が所有している会社。㊁《スポーツ》ホールディング。㊂《法》判決，判示」の意味をもっている。ドイツ語の Holding が㈠の流れだけを引いているのに対して，日本語の「ホールディング」は㊁のみを汲み，「サッカー・バスケット・ハンドボールなどにおいて相手の競技者を手で押さえること，また，バレーでは球が競技者の手に支えられて静止すること」の意味で使われている。ドイツでは経済用語となり，日本ではスポーツ用語として定着した。

㉜ Husky ['haski] (男 — s ／. . kies)

「ハスキー」と聞いてすぐに流行歌手の青江美奈や森進一を思い浮かべる日本人には，*der* Husky が「エスキモー犬」のことだと言われても信じがたいであろう。Eski [mo] が転訛してできたとされている英語の husky に由来する。犬ならばドイツ語で *der* Hund だから，Husky も男性名詞として扱われる。

青江美奈や森進一の「ハスキー」はこれとはまったく別系統の husky からきている。「声がしゃがれた；（人が）しゃがれ声の」という意味をもつ形容詞である。本来形容詞のこの「ハスキー」を日本では名詞的に使うこともある。「あたし森進一のハスキーがだいすきなの。」この場合の「ハスキー」を正確に言い直せば「ハスキー・ボイス」である。日本語の「ハスキー」は a husky voice の代用語にもなっているわけだ。ちなみに，ドイツ語では「ハスキー・ボイス」を eine heisere Stimme と言う。

㉝ in

英語の in は主に前置詞及び副詞として用いられ，やや特殊ながら形容詞及び名詞の用法もある。in の概念は改めて説明するまでもない。私たちがテニスなどの球技で使う「イン」は形容詞としての in の一用法を取り入れたものである。

ところでドイツ語にも，本来の前置詞 in のほかに，英語の副詞としての in の一用法が入ってきて，近年盛んに使われるようになった。Green coats will be *in* this fall.（今年はグリーンのコートが流行するだろう）の in の用法をまねて，Dieser Schlagersänger ist zur Zeit *in*.（この流行歌歌手は目下人気の的だ）とか，Jeans sind nach wie vor *in*.（ジーンズが依然としてはやっている）のような言い方をする。ドイツ語としてはつねに自動詞 sein と結びつく。これの対照表現は out sein。日本語の「イン」にはこのような用法はない。

㉞ Joint (男 — s ／— s)

日本語となった「ジョイント」は，英語の名詞としての joint が表す意味をほぼ忠実に受け継いでいる。外来語辞典によれば，まず「つぎめ，つなぎめ。木材・鉄骨の接合部」，次に「機械の動力を伝達する部分」，そして「（グループどうしの）連携，合同」となる。日本語としてはさらに「ジョイント・コンサート」，「ジョイント・ベンチャー」のような複合的用法もある。

ついでながら，「ジョイント・コンサート」の方は形容詞としての一用法 a joint concert を日本語化したもので「合同演奏会」の意味でよく使われる。「ジョイント・ベンチャー」の方は英語の複合語 joint venture をそのまま日本語読みしたものである。経済界の専門用語だから，一般にはなじみが少いかもしれない。その意味は「㈠2社以上の会社が資本参加などにより協力して事業を行うこと。㈡外国資本と国内資本の提携」である。この複合語はドイツの経済界でも使われる。

さて，Joint そのものに話をもどそう。ドイツ語の中で Joint がどのような意味で使われているかというと，それは日本語の「ジョイント」からはとても想像できないしろものである。つまり「ハシッシュかマリファナを混入した紙巻きたばこ」のことなのだ。たしかに英語の joint にはそのような俗語的用法もある。joint の数々の意味の中からその部分だけを借りて，隠語にしたのであろう。

Joint が男性名詞になっているのは，*der* Tabak の一種とみなしてだろうか。

㊺ **Kick**（男—［s］／—s）

英語の kick が名詞として表す主な意味を集約すると，次のようになる。「㋑けること；（ボールの）けり，（水泳の）足のけり。㋺反対，反抗；反発力；元気，活力。㋩（アルコール飲料の）刺激性，ぐっとくる酔い；快い興奮，スリル。」

「コーナー・キック」，「ゴール・キック」のようにサッカーやラクビーの用語としての「キック」はすっかり日本語になりきっている。その証拠に「コーナーけり」，「ゴールけり」とは言わない。日本ではまた水泳の「キック」もそれに次いで一般化しているが，こちらはまだ「足のけりが弱い」とも言い換えられる。

ドイツで Kick という語が用いられる場合，それはたいていサッカーの Stoß と同義である。この Stoß が男性名詞であるから Kick も男性とされている。日本と違ってサッカーの「けり」には Stoß が使われるのがふつうであり，Kick はジャルゴンとみなされている。しかしドイツ語の Kick はその一方で㋩の系統も汲んでおり，「麻薬による恍惚感」の意味にも使われる。日本語の「キック」には今のところまだこの意味は入っていない。

ついでながら，ドイツでは英語の動詞 kick をまねて，kicken という動詞が作られた。これは「サッカーをする」と「（ボールを）ける」を表す，俗語調の動詞である。正式のドイツ語では，前者を Fußball spielen,後者を stoßen と言う。

㊻ **Mixer**（男—s／—）

英語の mixer には次のような意味がある。「㋑果物や野菜のジュースを作る混合機。㋺コンクリートの混合機。㋩混合（調合）者，バーテンダー。㋥音量（音声）調整装置；音量（音声）調整者。㋭社交家。」

ドイツ語になった der Mixer と日本語になった「ミキサー」とは一見同じものを指すようでも，やはり意味のずれがある。双方とも㋑と㋥を共通に受け継ぎ，ほかに一つずつ引き継いでいる。その一つがドイツ語 Mixer では㋩，すなわち洋酒を混合する人のことで，der Barmixer とも言う。日本語「ミキサー」が表すもう一つの意味は㋺で，正式には「コンクリート・ミキサー」と呼んでいる。一般には「ミキサー車」という用語でよく知られている。

なお，Mixer は動詞に—er を付けて「…する人」を表す名詞の通例として男性とされた。

㊼ **off**（副）；**Off**（中—／）

英語の off には「離れて」を基本語義として十数種の用法がある。そのうちの一つだけを日本語の「オフ」が受け継ぎ，また別の一つだけをドイツ語の off が受け継いでいる。私たちにとって最もなじみのある「オフ」は，なんといっても電気のスイッチの「オフ」であろう。電気器具の取扱い説明書を見ると「スイッチBをオフにしてから…」といった言い回しに幾度も出会

う。スイッチが切った状態にあることは，すなわち「機械が停止している」ことでもある。

ドイツにおける off の使用場は主として映画・テレビ・劇場であり，その意味は「観客に見えない所で，画面に姿を現わさないで，舞台裏で」というものである。das Off という名詞もできている。私たちが日頃親しんでいる「オフ」からはちょっと想像がつかない用法だ。

㊽ on（副）；On（中 ―／）

ドイツ語の場合も日本語の場合も，上記 off の対照語として用いられる。日本語としての「オン」は明治以来，大体次の二つの意味に用いられている。「㋑電気や機械などのスイッチを入れること。あるいは操作中であること。㋺《ゴルフ》打球がグリーンの上に乗ること。」

これに対してドイツ語としての on は「映画・テレビで，話す人が画面に姿を見せていること；舞台に話手が姿を現していること」の意味に使われる。その名詞は das On。

㊾ Panel（中 ― s ／― s）

英語の名詞としての panel は「区切り，仕切り」を根幹として，そこから派生した種々の意味をもっている。その数およそ18種のうち 3 分の 1 ばかりを日本語の「パネル」は受け継いでいる。建築に関して使えば「鏡板」，電気関係ならば「配電板」，美術の話題では「カンバスの代わりに用いる画板」のことであり，展示場などでは「写真やポスターを貼ったり，文字や図を書いた板」を指す。いずれも英語の panel がもつ意味を逸脱したものではない。ときには a panel skirt（別布を縫い込んで飾りにしたスカート）のことを日本では単に「パネル」と呼ぶこともある。複合形では「パネル・ディスカッション」とか「パネル・ヒーティング」などときどき耳にする。前者は「特定のテーマで，あらかじめ選ばれた数人の専門家が聴衆を前に行う討論形式」を意味し，後者は「コンクリートの床の中にパイプを通し，温水を流す暖房法」を指す。それぞれ英語の panel discussion, panel heating をそのままカタカナに移したものである。

日本語の「パネル」はまた「パネル調査」といった使い方もされる。その意味は「同じ回答者に対し定期的・継続的に特定の調査を行い。消費者や商品の動きを確かめるマーケティング調査の一方法」である。英語の panel を経営に関して使えば，panel 一語でその意味になるのだが，日本語としては「マーケティング調査」の一種であることをはっきり表すために，わざわざ「調査」を添えている。このいわゆる「パネル調査」の対象として選ばれた回答者集団のことも英語では panel 一語で表わすが，ドイツ語としての Panel が英語の panel から引き継いだ意味はただ一つ，この「回答者集団」のみである。panel の原義が *das* Feld. *das* Paneel に当たるところから中性名詞とされたのかもしれない。

㊿ Playback［ˈpleɪbak または pleɪˈbak］（中 ― s ／）

「録音（録画）の再生」を私たちはふつう「プレーバック」と言っている。英語の playback が表す主要語義をそのまま取り入れているのである。

テープレコーダーやテレビなどの用語は，航空機やボウリングの場合と同じように，英語が世界の共通用語として通用している。だから「プレーバック」と das Playback は同じ意味だと，つい思い込んでしまいがちだ。

西ドイツでも東ドイツでも Playback は録音・録画に関するテクニカルタームになっている。

その意味は単に録音(画) を「再生」することではなくて,「前もって別個に採録しておいた音［楽］を再生しながら，それに合わせて画像を撮影する，あるいは別の音声を同調録音すること」である。日本のラジオ・テレビ関係者が「アフター・レコーディング」，略して俗に「アフレコ」と呼んでいる録音（画）方法なのだ。「プレーバック」と das Playback を結果現象だけ比較すると,「再生」と「録音」の違いがあることになる。

蛇足ながら，after-recording は一見れっきとした英語に見えるが，実は日本生まれである。英語で表現するなら，post-recording あるいは dub in を名詞形にした dubbing in を使うべきところ。

次に，Playback の性について考えてみたい。英語の back はオーストリア・スイスで「サッカーの後衛」の呼び名として取り入れられている。しかし，その Back は男性名詞だから，中性の Playback とは無関係とみるべきだ。ドイツには録音や撮影のやり方を表す *das* Playback-verfahren というテクニカルタームがある。仕事場では簡潔な呼び名が好まれる傾向があり，前半部だけで表すようになった。 後半部の-verfahrenが省かれたのちも定冠詞は*das* Verfahren (処置，やり方) の das が残った。このように考えれば Playback の性はもとより，その特殊な意味についても納得できそうだ。

⑨① **Pot**[1] (中 — s ／) ; **Pot**[2] (男 — s ／)

「ポット」と聞いて,「コーヒーポット」と「魔法びん」しか思い浮べない日本人にとって，das Pot が「ハシッシュ」や「マリファナ」を指すとは想像もつかないことだ。ドイツではもちろんその筋の隠語であるから，一般家庭で使われることはないと思う。

明治時代に coffeepot とともに日本に入って来て以来「ポット」は私たちの生活にすっかりとけこんでしまい，今では「コーヒー沸かし」,「湯沸かしびん」と言う方がぎごちない感じがする。外来語もひと度定着すると一人歩きをはじめるもので，近ごろでは英語の vacuum bottle（魔法びん）まで「ポット」と呼ぶようになった。

巻きたばこ状にしたマリファナは中が深い空洞になっていることから，俗に pot とも呼ばれる。das Pot はこの意味だけを担った語である。そしてドイツ語でマリファナは *das* Marihuana，ハシッシュは *das* (または *der*) Haschisch と言う。文法上の性が落ち着くところはやはり中性であろう。

英語の pot はトランプに関して使われると,「(ポーカーなどで) 一勝負ごとの賭金の総額」の意味になる。この意味は der Pot の方に受け継がれている。pot と同語義の *der* Topf に合わせて男性名詞とされたらしい。

⑨② **Push** (男 —［e］s／—es)

「押す［こと］」を基本語義とする英語の push がドイツ語に入ったのは，第二次大戦後である。ただし，東ドイツには入っていない。そのわけは，der Push が担っている意味から明らかであろう。一つの意味は「商品を積極的に宣伝して（勧めて）強引に買わせること，買わせる押し［の強さ］」であり，もう一つは「(ゴルフで) 球が目標から打ち手側の方向へ大きくはずれるような打ち方」である。この意味を動詞化するために，語尾—en を付けて pushen という語がつくられた。動詞としての用法には上記 2 種の意味のほかに，英語の他動詞 push がもつ「(麻

薬を）行商（小売り）する」という俗語的意味も入っている。

日本語としての「プッシュ」はスポーツ用語と言ってもいいほど，いろんなスポーツでよく使われる。バレーボールでは「ネット上でボールを相手コートへ軽く押し入れること」。野球では「バットを大振りしないで軽く押すように打つこと」。サッカーでは「ボールを軽く足で押してゴールに入れること」。ラクビーでは「相手方の選手を押すこと」。ホッケーでは「球を両手で突くこと」。いずれも「押す，突く」を基本語義とする push の適用範囲内に入っている。ドイツ語の der Push が受け入れた「買わせる押し」と「（麻薬を）行商する」は日本語の「プッシュ」には含まれていない。

なお，Push がドイツ語として男性名詞になったのは，英語の原義が *der* Anstoß. *der* Vorstoß に当たるからであろう。

㉝ **Ready-made**（中 —／— s）

英語 readymade は形容詞としては「できあいの，既製の」を表し，名詞としては「㋑（特に衣服の）既製品。㋺芸術的展示物として扱われる日常の道具またはその一部」の意味に使われる。

日本語で「レディーメード」と言うときは十中八九「既製服」を指している。上記の㋑の方である。これに対して，ドイツ語の中で Ready-made が用いられるときは，㋺の方の意味である。

readymade の原義をドイツ語訳すると，[gebrauchs]fertig Gemachtes（すぐ使えるように作られたもの）となる。これが中性であることから Ready-made も中性とされたのであろう。

ちなみに，ドイツ語では「既製服」のことを die Konfektion と呼んでいる。

㉞ **Release**（中 —／— s）

英語の release は名詞として「㋑（監禁・義務・苦痛などからの）解放。㋺はずすこと，放出。㋩解放(放出・発射)装置。㋥初公開，(映画の)封切；（ニュースの)公表；（本・レコードなどの)発売。㋭封切映画，発表記事，初公開の演劇，新発売の本（レコード)。㋬《法》権利の放棄。㋣（機械を作動・停止させる）制御器；（カメラの)レリーズ」などの意味をもつ。

この英語に由来するドイツ語の Release も日本語の「レリース」も，日常ひんぱんに使われる語ではないけれども，それぞれが受け継いだ意味が互いに異っているので，ここに取りあげた。

日本ではカメラのシャッターを切るひもを「レリース」または「リリース」と呼んでいる。ふつうの人が最近もっているカメラにはそれがないから，一般にはあまり知られていないかもしれない。そのほか，機械に関しては「機械の仕掛けをゆるめること」にも使われるようだ。要するに，上記７種の意味のうち，最後の㋣だけを汲んでいる。

ドイツにこの英語が入ったのは19世紀で，当時は㋬すなわち「権利の放棄」の意味で使われていた。当時男性名詞とされていたのは lease がドイツ語の *der* Pachtvertrag（租借契約）に当たるからであろう。しかし現在では中性名詞として扱われる。今の西ドイツで Release と言えば，*das* Release-Center（麻薬中毒患者を収容して治療する施設）の略称だからである。これは㋑の系統に属する特殊な用法である。

㊺ Scooter, Skooter (男 — s ／—)

英語の scooter は「㋑（子供の遊び道具としての）スクーター，片足スケート。㋺（おとな用のモーター付きの）スクター。㋩《米》（水上・氷上を滑走する）帆走船」を表す。

日本語で「スクーター」と言えば，㋑か㋺のことであり，㋩の意味では使われない。ドイツの場合は英語の scooter が Scooter と Skooter になった。Scooter の方はドイツ語になってまだ新しく，上記の㋩すなわち「帆走船」を表す。これより先に入ったもう一つの方は，「（縁日や遊園地などで見られる）娯楽用小型電動自動車」を表し，今ではふつうドイツ語式に Skooter とつづられるようになった。名詞としての性は *der* Motorroller に合わせて男性。

このように，ドイツで Skooter と呼ばれているものは，私たちが「ゴーカート」と呼んでいるものと同じである。

㊻ Set (中または男 —［s］／— s)

英語の set が名詞としてもつ意味を簡単にまとめると，およそ次のようになる。「㋑（同種のものの）一そろい，一組，一式。㋺（利益・職業・習慣などを同じくする）仲間，一団，一派。㋩受信機，受像機。㋥姿勢，からだつき，格好；（衣服などの）合い具合い；（髪の毛の）セット。㋭（潮流・風などの）方向；（世論などの）傾向。㋬舞台装置，（映画の）セット。㋮（テニス・バレーなどの）回。㋯《数》集合。㋰《心》構え（有機体がある刺激に対し一定の方法で反応しようとする一時的な準備状態。㋱《詩》（日・月の）入り。㋲《印》活字の幅。」ざっと11種に及ぶこれらの意味のうち，ドイツ語の Set と日本語の「セット」が共有しているのは㋑の「一そろい，一組，一式」だけである。日本語の「セット」についてだけ言えば，ほかに「（映画の）セット」，「（ラジオの）受信機」，「（テニス・バレーなどの）回」，「（整髪の意味での）セット」など，英語の名詞 set の半分位の意味を包含している。

さらに，「食卓をセットする」，「舞台をセットする」，「タイマーをセットする」，「髪をセットする」などのように動詞 set の用法も結構日本語化して使っている。複合形では，テニスの「セットポイント」，「セットスコア」，野球の「セットポジション」，美容の「セットローション」などなじみ深い。テニスの試合で言う「セットオール」は set と all を日本で組み合わせた，いわゆる和製英語である。和製英語の構成要素になり得るということは，それほど日本語の中に融け込んでしまったという証拠なのかもしれない。

さて，ドイツ語の Set に話を移そう。こちらは上記の㋑～㋲の中では㋑のほかに㋰すなわち心理学用語として「構え」の意味で使われる。しかも西ドイツではたいてい麻薬中毒患者について用いられ，「麻薬の効果を左右する，麻薬中毒患者の心理的・肉体的準備状態」を表す。ドイツ語としての Set はこのほかに Platzdeckchen（食卓で各人用食器の下に敷く小型マット）の同義語としても使われる。この品物は英語では place mat と称している。家庭の食卓でテーブルクロスが汚れないように各人が食器の下に敷く，縦30センチ，横50センチほどの敷物で，材質は布・皮・プラスチックといろいろある。どういうわけでドイツ語の Set がこの Platzdeckchen の意味にも使われるようになったのだろうか。英語の動詞としての set がもつ「置く，載せる」あるいは「配置する」という意味から独自に派生したのかもしれない。

名詞としての性は「一組，一そろい」を主に考えれば *der* Satz に合わせて男性，*das* Platzdeck-

chen に合わせれば中性。

ドイツ語にはこのほかに印刷用語としての英語の set が入っている。これは中性名詞で，活字の太さ・大きさを表す単位として用いられる。

㊼ Share（男 —／— s）

英語の share が名詞として表す意味は大きく分けて二つある。「㋑（個人・グループの）分け前，割当て；持ち分，分担；《経》市場占有率。㋺（会社の）株，株式。」この二つの意味を日本語の「シェア」とドイツ語の Share が完全に分担してしまった。すなわち日本語の「シェア」が「分け前，持ち分」と「市場占有率（マーケットシェア）」の意味だけで使われているのに対して，ドイツ語としての Share は「株」のみを表し，Aktie の同義語として知られているにすぎない。ついでながら，ドイツ語では「マーケットシェア」のことを der Marktanteil と言う。

なお，Share が男性名詞とされたのは英語の share の原義がドイツ語の *der* Anteil に当たるからであろう。

㊽ Shorts（複）

英語の short が形容詞として「(寸法・距離が)短い；（丈が)低い」を表し，また副詞としては「急に；簡潔に」の意味に使われることはよく知られている。この short に名詞としての用法もあり，その複数形 shorts は「㋑（小児・男子用）半ズボン；（スポーツ・レジャー用の）ショートパンツ。㋺《米》（男子用下着としての）パンツ」を表す。

この語が1930年代に㋑の意味でドイツへ渡った。したがって，今のドイツで Shorts と言えば「（スポーツ・レジャー用の）ショートパンツ」のことであり，男性用にも女性用にも使われる。

日本語の「ショーツ」も「ショートパンツ」の意味で使われることはあるが，近頃一般に使用されるときの意味は，むしろ㋺の系統を引いている。それは「肌にぴったり合うように作られた婦人用下ばき」である。本元のアメリカでは「男性用の下ばき」に用いられる語が，日本語化したとたんになぜか性の転換が生じて，「女性用の下ばき」を指す呼び名になってしまった。

デパートの下着売場に近頃「ブリーフ」という語も見かけられる。これは「ショーツ」に対して「（男性用の）股下のない下ばき」を表すのに用いられている。short と同じく，「短い［もの］」を表す brief の複数名詞形 briefs が「男性用または女性用の短い下ばき」の意味にも使われることから，それを日本のつごうに合わせて借用したのであろう。

ドイツでは「手紙」の Brief があまりにも日常的用語であるためか，「下ばき」の briefs は取り入れられていない。その代りに Slip という英語系外来語が「下ばき」を表す新しい呼び名として幅をきかせている。

㊾ Slice［slais］（男 —／— s）

英語の slice が名詞として表す意味をまとめると，おおよそ次の 4 種になる。「㋑（パン・肉などの）薄片，薄い一切れ。㋺（全体からの）一部分。㋩へら状の器具。㋥（ゴルフ・野球・テニスなどで：）打球が途中から利き腕の方向にカーブすること。」

ドイツ語の仲間入りをした Slice はこのうちの㋥だけを受け継いでいる。日本語の「スライ

ス」も㋺の意味で使われることはあるが，日常生活ではむしろ㋑の意味で親しみがある。マーケットの食品売場に行くと，「スライス・チーズ」，「スライス・ハム」といった表示をたくさん見かける。

Slice をゴルフとテニスの打球に関して使うドイツでは，英語の動詞としての slice に—en を付けて slicen という動詞形もできた。過去は slicte [ˈslaiste]，過去分詞は geslict [gəˈslaist]。球の打ち方は *der* Schlag であるから，Slice も男性名詞とされた。もしも Slice が「薄片」の意味で取り入れられていたら，*die* Scheibe, *die* Schnitte に合わせて女性名詞になっていたかもしれない。

⑩⓪ Slipper (男 — s ／—)

私たちが「スリッパ」または「スリッパー」と呼んでいるものは，足の後半分をむき出しにして，足の甲にひっかけて履く「洋風の室内履き」である。一方，ドイツで Slipper と呼んでいる履物は，足の後半部を履う部分もちゃんとあって，むしろふつうの靴の形をしている。特徴は結びひもがなくて，かかとが平たいことで，日常気楽に履くのに適している。室内に限らず，ちょっとした買物にも履いて出かける。要するに，くつろいだ気分で気楽に履く靴といった感じである。

英語の slipper は「(室内用・舞踏用の) 軽い上靴」を指す語で，20世紀初めごろからドイツでも日本でも借用語として使うようになった。動詞 slip (滑る) に—er を付けて出来た名詞だから，ドイツ語では男性である。ちなみに，日本で「スリッパ」と呼ぶあの履物のことをドイツでは der Pantoffel と呼んでいる。

⑩① Snack (男 — s ／— s)

名詞としての英語 snack は「㋑簡単な食事，軽食。㋺分け前，割り前」を表す。ドイツ語の中で使われるときの Snack は㋑の意味の方で，ドイツ語の *der* Imbiß に相当する。名詞の性はこの同義語に依ったのであろう。

「スナック」が日本語の仲間入りをしたのは，ドイツ語の場合と同じく，第二次大戦後のことだが，はじめはやはり「軽食」の意味で使われていたはずである。西洋風の軽食堂が献立の内容を示す意味で看板に「スナック」と書くようになってから，「スナック」一語で「軽食堂」まで表すようになった。

「軽食堂」を英語で言うなら snack bar だ。ドイツでもこれをまねて，die Imbißstube の代りに die Snackbar と言うことはよくある。日本の「スナックバー」は「軽食中心の店」ではなくて，「軽食もとれる，アルコール飲料中心の店」である。このような飲み屋を簡単に「スナック」と呼んだりもするから，国際的には意味がますます錯綜することになる。ケチケチ旅行で日本へやってきたドイツ青年が食費節約のために「軽食」をとろうと思って，snackbar と書かれた店に飛び込んで所持金全部を巻き上げられることだってあるかもしれない。

⑩② Snow (男 — s ／)

日本語の中では「雪」には雪という漢字を使うのが普通であって，「雪」を単独に「スノー」と置き替えることはない。その代りに，「スノー・ウェア」，「スノー・グラス」，「スノー・タイヤ」，「スノー・ホワイト」などの複合形ではよく使われる。そしてこの場合の「スノー」が「雪」

であることも知らぬ人はない。雪の特徴をその性質面でとらえると「冷たい，光を反射しやすい，滑りやすい」となる。上の四つの複合語のうち三つまでは，このような性質をもつ雪に対処するための物品である。最後の「スノー・ホワイト」は雪の特徴を色の面でとらえている。雪の特徴をさらに形状の面でもとらえれば，そのイメージはまさに「白い粉末」だ。英語の snow がコカインやヘロインの隠語にもなるのはこのイメージに由来する。そしてドイツ語の中での Snow が負う意味分担はただ一つこの隠語的用法のみである。

「スノー・ウェア」は「スキー・ウェア」(<skiwear) と呼ばれることの方が多い。ドイツ語では der Skianzug と言う。「スノー・グラス」(<snow glasses)，「スノー・タイヤ」(<snow tire)，「スノー・ホワイト」(<snow-white) に相当するドイツ語はそれぞれ die Schneebrille, der Schneereifen, schneeweiß である。

なお，Snow が男性名詞とされたのは，同語源・同語義のドイツ語 Schnee が男性名詞だからである。

⑩③ **Soft Drink** [zɔft driŋk] (男—s／—s)

アメリカ生まれの soft drink は「アルコール分を含まない軽い飲み物」の呼び名である。日本ではふつうそれの複数形の音をカタカナに移して「ソフト・ドリンクス」と言っている。やはりアルコール分を含まない清涼飲料を指す。

soft は飲み物に関して用いると，たしかに「アルコール分を含まない」の意味になる。ところが，ドイツの Soft Drink はなぜかアルコール分を含んでいる。食前酒をたいていそう呼ぶからだ。アルコール分の強い飲み物を指す Hard Drink の対象語として用いる点では英語の場合と変りないが，「アルコール分を含まない」が「特に強いアルコール分を含まない」に変質してしまっている。

Drink が男性名詞になっているのは，それと同系統でやはり「飲み物」を表す Trank, Trunk が男性だからであろう。

⑩④ **Speed** (I 男—s／—s；II 中—s／—s)

英語の speed は，名詞としては「㋑速さ，速力，速度。㋺(自動車などの)変速装置。㋩《俗》刺激剤，覚醒剤（アンフェタミン，メシドリンなど)」といった意味に使われる。

日本語の中で私たちは「スピード」という語を実にいろいろな場面で口にしている。競走スポーツについて，航空機や自動車について，あるいは野球の投手が投げる球について，どんなケースでも，「速さ，速力」または「速度」に言い換えられる。つまり，日本語の「スピード」は，英語の speed が上記の㋑の意味で明治時代に入ってきたとき以来，そのままの意味で広く使われるようになって今に到っている。副詞の「スピーディー」(<speedy) にしろ，「スピード・ボール」(<speedball) とか「スピード・アップ」(<speedup) などの複合語にしろ，すっかり日本語の一部になってしまった。日本語化のスピードが勢い余って，とうとう「スピードダウン」なる擬似英語まで生まれてしまった。

この㋑の系統はドイツ語の Speed にも受け継がれているが，やや独特のニュアンスで使われる。つまり，単なる「速さ，速度」ではなくて，競り合って抜きん出ようとするときの「力走，スパート」といった感じである。この意味では *der* Spurt に似ているので，男性名詞として用

いられる。

ドイツ語の Speed は最近もう一つの意味でも使われるようになった。それは英語の speed がもつ上記㋩の意味，すなわち「(効き目が早い)覚醒剤」である。この意味のときは，*das* Rauschmittel の一種というわけで，中性名詞。日本語の「スピード」はこの種の隠語に使われることはない。

⑯ Story (安 —／— s または ..ies)

英語の story が表す意味を要約すると，「㋑物語，話；昔話。㋺短編小説。㋩（小説・劇などの)筋，構想。㋥（人・物にまつわる）話；逸話。㋭（報告としての）話；所説。㋬新聞記事。㋣うそ，作り話。㋠うわさ；伝説，言伝え」といったところであろうか。

日本へは㋑と㋩の意味を伴って明治時代に入ってきて以来，現在までほぼそのままの意味を保持している。強いて言えば，現在では㋩の意味の方が優勢かもしれない。

ドイツには19世紀末に，まず㋺すなわち「短編小説」の意味で入り，20世記になってから㋣，㋠の系統が入った。「(ふつうでは考えられないような）異常な話，とっぴな話」である。次に入ってきたのは㋭と㋬の系統を引く意味で，eine Story über einen Parteitag schreiben（党大会に関する報道記事を書く）のような使い方をする。この種の Story は，新聞に掲載されている記事だけではなく，記者がデスクへ送る報告文も含む。

Storyがドイツ語として女性名詞になったのは，意味の上で最も近いドイツ語が *die* Geschichte だからだろう。

⑰ Strip [ʃtrip または strip] (男 — s ／— s)

ドイツでは「ストリップショー」のことを der（または das）Striptease と言う。Strip とはその略称である。Striptease にしろ Strip にしろ，英語の用法をそのまま取り入れて，頭文字を大書しただけである。

日本で言う「ストリップ」は「ストリップショー」の略称と考えられる。本家のアメリカでは striptease と言うのがふつうなのに，日本ではなぜ「ストリップティーズ」と言わずに「ストリップショー」と呼ぶのだろうか。「外来語の語源」によると，日本では終戦直後の昭和21年に東京新宿の帝都座で「額縁ショー」と称して，額縁の向こうに女性の裸の静止した姿を1分間ほど見せたのが最初だそうだ。アメリカ渡来の striptease が日本では最初に「額縁ショー」という名称と結びついたがために「ストリップショー」という呼び名で一般化していったのであろう。厳密に言うと，strip とは自動詞の場合「衣服を脱ぐ」ことなのだから，最初から裸になっている姿には当てはめられないのだが。

さて，英語にはもう一つの strip があって，こちらは「(布・板・土地などの）細長い切れ」を表す。こちらの系統も日独両方に入っているが，その二つは形状は同じでも物質が違っている。すなわちドイツ語 Strip の方は「細長くつながれたばん創膏」であるのに対して，日本語「ストリップ」の方は「圧延された広幅帯鋼」である。

Strip がドイツ語として男性名詞となっているのは，「細長い切れ」がドイツ語の *der* Streifen に当たるからである。

⑱ Stylist [stai'lɪst] (男 —en／—en)

英語の stylist は二通りの意味に使われる。「㋑文体を練る人，文体家。㋺（衣服・髪型・室内装飾などの）意匠家，デザイナー。」この二つの意味は日本の「スタイリスト」にも入っている。作家や文学研究者たちが「スタイリスト」と言うときの意味はたいてい㋑であり，映画界や広告業界では同じ「スタイリスト」を㋺の意味で使っている。このほかに私たちはまた「今度の部長はなかなかのスタイリストだね」といった使い方もする。この「スタイリスト」は「おしゃれ，風彩・服飾に気を配る人」を表しているのだが，本家の stylist にはこんな用法はない。

ドイツ語として使われるときの Stylist は「実用品（特に自動車のボデー）の形をデザインする人」を表すから，㋺の系統だけを引いていることになる。㋑の方はドイツ語では der Stilist で表す。*der* Pianist, *der* Tourist のように語末の-ist で「人」を表す名詞は男性名詞。

⑩⑧ **Survivals** [sə'vaivəlz]（複）

核戦争の危機，石油・石炭の燃焼による大気汚染，人為的海水汚染，地表の砂漠地拡大と人口増加に伴う深刻な食糧不足，近年こういった問題が取りざたされるようになって，私たちはよく「サバイバル」というカタカナ語を耳にするようになった。それは「(特に困難な，異常な状況のもとで）生き残ること，生き延びる術」という意味で使われている。英語の survival は大体二通りの意味に使われるが，私たちの「サバイバル」はその一つを汲み取ったものである。

同じ survival がドイツ語にはもう一つの方の意味を伴って入った。それは「(古い時代の）残存風習（儀式・信仰など）」を表し，Survivals という複数形で文化人類学あるいは民俗学の専門用語として用いられている。

⑩⑨ **topless**（形）

英語で topless はまず形容詞として「(特に女性の衣服で）胸部のない，乳房をおおうものがない；（女性が）トップレスの衣服を着た」を表し，次に名詞として「トップレスのドレス（水着）；トップレスのウェイトレス」の意味をもつ。

ドイツでも日本でも英語 topless の意味をそのまま取り入れているのだが，おもしろいことにドイツでは形容詞の用法を，日本では名詞の用法を取り入れている。要するに，ドイツ人は女性が乳房をあらわにしている状態を topless と呼び，日本人は乳房の部分をあけた女性用の水着を「トップレス」と呼んでいる。

ドイツでは，topless の概念をドイツ語訳した oben ohne の方がより一般的である。

⑪⓪ **Treatment**（中 — s／— s）

英語の treatment はおおよそ次のような意味を表す。「㋑（人に対する）取り扱い，待遇。㋺（様式・手法の点からみた）文学上・芸術上の扱い方，取り上げ方，論じ方。㋩治療[法]。㋥（薬品などによる）処理，処置。」

日本語としての「トリートメント」はもっぱら女性の髪について使われる。「髪が極度に乾燥すると毛先から亀裂が入って枝毛となります。よく，枝毛になってからあわててトリートメントをなさるかたがあるようですが，それでは遅すぎます。いちばんいい方法は，海や山に出かける前にトリートメントをして油分を充分に補って習慣をつけておくことです。」これはある婦人雑誌の記事だが，同類の記事にはさかんに「トリートメント」が出てくる。その意味は「傷

んだ髪の，あるいは髪の傷みを防ぐための［薬品などによる］処置・手入れ」であるから，上記㋑—㋩のうちの㋩の系統を引いていることになる。

これに対して，ドイツ語の中で使われるときの Treatment は㋺の系統を汲んでいる。しかも用途は映画やテレビドラマの製作に関することに限られていて，「筋の流れや登場人物の性格を定めた下書き」つまりシナリオの前段階としての草稿を意味する。

名詞としての性は，*das* Dokument（記録），*das* Fundament（土台），*das* Monument（記念碑）などと同じく，-ment に終る語として中性。

⑪ Trimm（男—[e]s／）；trimmen（動）

動詞，名詞，形容詞として用いられる英語の trim は今世紀前半にはすでにドイツ語化したつづりで海事用語として使われていた。当初，名詞 der Trimm は「（船の）バランス」を，動詞 trimmen は「（船に）積荷を配置よく積み込む」を表し，今でもその用法は残っている。均衡のとれた *der* Zustand（状態）だから Trimm も男性名詞。

ところが動詞 trimmen の方にはその後新しい意味，「（ラジオなどの波長を）調整する」，「（犬の毛を）刈り込む」，「（骨折って望む形に）仕上げる」，そして最後に「スポーツや体操をして体調を整える」が加わった。いずれも英語の他動詞 trim の用法をまねたものである。ただ，最後の意味は trim を船や飛行機に使うときの「釣り合いを保つ（よくする）」を人間に適用した，ドイツ生まれの用法らしい。Er trimmt sich fast täglich durch Waldläufe.（彼はほとんど毎日森をジョギングして体調を整えている）のように再帰動詞として用いることが多い。ドイツの森を歩くと，よく Trimm dich!と書かれた立札に出合う。そこには丸太などで作った簡単な運動設備が順々に幾通りも用意してある。日本でも最近「トリム運動」という言葉をときどき耳にするようになった。「トリム運動」とは「心身のバランス調整や健康増進を目的とする国民総スポーツ運動」のこととされている。ドイツ語の sich trimmen の意味は，この「トリム運動」の意味からだいたい推し測ることができる。

しかし，日本語の「トリム」を，「トリム運動」のような複合語の形ではなくて，「トリム」だけで使うと，まったく違う意味になる。すなわち，服飾関係で「縁取りをすること，へり飾りをすること」を表す。これもやはり英語の trim がもつ意味の一つである。

⑫ Turn［tø:ɐn または toern］（男—s／—s）

「回転，旋回」を基本語義とする英語 turn は使用場が広く，それだけに派生語義も多い。

日本では水泳競技会の放送でよく「ターン」という語を聞く。「ニッポンの長崎選手が頭一つリード。あと5メートルで100メートルのターンです。」この「ターン」は「プールの端から反対方向へ折り返すこと」の意味で用いられている。折り返すといえば，マラソンでも例えば「雁の巣の折り返し点をいま先頭ランナーがターンしました」のような使い方もする。この「ターン」なども「折り返し」とまったく同時に使われている。このほか，Uターンのように自動車に関しても使い，またダンスの練習でもしょっちゅう「ターン」が口にされる。こうしてみると私たちが使っている「ターン」は turn の基本語義にかなり忠実であることがわかる。

ドイツで用いられる Turn はまず第1に飛行機の「旋回」を表す。これは私たちにも難なく理解できる。しかし，もう一つの意味「（ハシッシュやマリファナによる）陶酔状態」は実に意外

である。英語の turn は「(病気・失神・めまいなどの) 発作」という意味に用いられることがあるが，おそらくこの用法が麻薬関係の隠語として入ってきたのであろう。turnen はドイツ語として「体操する」の意味だが，これを英語風に［tø:ɛnən または ˈtoernən］と発音すれば，「(麻薬で) 陶酔状態に陥る」の意味になる。「陶酔状態」をドイツ語では *der* Rauschzustand と言うから，Turn は男性名詞とみなされたのだろうか。

⑬ **User** (男 — s ／—)

英語の user は「使用者，利用者」の意味でかなり広範囲に使用される語である。ドイツ語に入った User も，日本語に入った「ユーザー」も，ともに「使用者，利用者」を表す点ではなんら差異はない。だが，「何を」使 (利) 用するか，という点で両者の間には大きな違いがある。

日本語としての「ユーザー」は「ユーザーのニーズが多様化してきたために……」のような用例からわかるように，ふつうは「自動車の使用者」すなわち「オーナードライバー」の意味で使われている。これに対して，ドイツ語としての User は「麻薬の使用者」すなわち「麻薬常用者」だけを表す。もちろん隠語である。

なお，User は動詞に-er をつけて「…する人」を表す名詞だから，ドイツ語としては男性名詞。

⑭ **Veranda** (女 —／Veranden)

ポルトガル語の veranda がヒンディー語を経て英語に入り，veranda［h］となった。日本語の「ベランダ」もドイツ語の Veranda も直接には英語の veranda［h］に由来している。

英語で veranda［h］と呼んでいるのは「家の正面または側面に張り出して作られた，屋根付き縁側」である。しかもそれは「3面に壁がなく，吹き放し」になっている。このような突き出し縁側は日本の公団住宅やマンションには必ず付いており，私たちはそれをふつう「ベランダ」と呼んでいる。英語から日本語へこの語が入ってきたのは，昭和になってからのことで，まだ年月が浅いだけに，意味上の差異は生じていない。

この英語がドイツに伝わったのは19世紀の中ごろ，1879年の外来語辞典では「吹き放しの」と説明してあるから，その時点ではまだ英語の veranda と同一物を指していたことがわかる。20世紀になってからは正書法辞典にも収録されるようになったので，そちらの説明を追ってみよう。1939年の正書法辞典では offen の手前に halb がついて「半分吹き放しの」となり，1952年版になると「半分吹き放しの」に「またはガラス張りの」がつけ足されている。そして1973年版ではとうとう「半分吹き放しの」が消えてしまって，「屋根がついて，側面をガラス張りにした」という説明になった。

100年たらずの間にドイツの Veranda の構造が変ったわけではない。Veranda という語の適用対象が，一般的な「張り出し縁側」から，別荘などしかない「ガラス張りの張り出し縁側」へと徐々にせばめられてきたと解釈すべきである。今のドイツでは一般的な「張り出し縁側」のことを der Balkon と呼んでいる。こちらはフランス語の balcon からきた呼び名で，1879年の外来語辞典にも Balcon のつづりですでに姿を見せている。しかし，正書法辞典に採録されたのは，Veranda よりもずっと遅く，1952年版がはじめてである。この Balkon という呼び名の方が一般化していくにつれて，Veranda の方は適用対象がだんだん限定されてきた，というこ

とになる。

なお，名詞の性については，*die* Agenda（メモ帳），*die* Propaganda（宣伝活動），*die* Soda（ソーダ）などと同じく-da に終る名詞として，女性とされたのだろう。

⑮ **Waggon**（男 — s／— s または — e）

主にイギリスでは waggon，アメリカでは wagon とつづられるこの名詞は，おおよそ次のような意味で用いられる。「㋑ 4 輪荷馬車，（4 輪の）運搬車。㋺（鉄道の）無蓋貨車。㋩《米》犯人護送車。㋥乳母車。㋭（街路上の）物売り車。㋬《主に米》ディナーワゴン。」

19世紀の初めイギリスからドイツへ入った Waggon は，特に鉄道の「貨車」を指す。*der* Wagen に近いので，男性名詞。

日本で「ワゴン」と呼んでいるものは貨車のように大きいものではない。ふつう屋内で使う小型の「手押し車」のことである。病院では食事を病室へ運び，宴会場やレストランでは料理・酒類をお客のテーブルへ運ぶのに使うあの「手押し車」を「ワゴン」と称している。英語で正式に言えば dinner wagon，つまり上記の㋬の意味だけを汲んでいるわけである。ちなみにドイツ語ではこれと同じものを der Servierwagen あるいは der Teewagen と呼んでいる。